

## 2-3 太陽熱利用システム

### (1) 導入目標

太陽熱利用システムの導入目標は、次表の通りです。ただしこの中には2003年時点で設置されていると考えられる戸数も入っています。ただそれらのシステムも、期間中には耐用年数（更新時期）を迎えていくため、その置き換えを進めていくことが重要です。

表16 太陽熱利用システムの導入目標

	2010	2020	2030
戸建	3,594㎡ (1,198戸)	5,775㎡(1,925戸)	7,881㎡(2,627戸)
集合	630㎡ (21棟)	6,390㎡ (213棟)	11,970㎡ (399棟)
事業所	1,620㎡ (54棟)	3,780㎡ (126棟)	6,480㎡ (216棟)
計	5,844㎡	15,945㎡	26,331㎡

### (2) 2010（平成22）年までの施策

#### ①太陽熱利用に関する普及啓発・機材の紹介

太陽熱利用システムは太陽光発電などに比べて、メディアやコマーシャルに乗る頻度が少なく、効率の高さやコストパフォーマンスの良さが知られていません。こうしたことから市民に対して普及啓発を進める必要があります。

#### ②信頼できる業者の育成・紹介

太陽熱給湯器は、かつて強引なセールスで信頼を損ねたことがありました。また、業者は設置するだけで、地域にメンテナンス体制がなく、故障・トラブルに対応できないことも問題となっています。国や都と連携しながら、太陽熱利用システムの性能評価や設置方法に関する基準づくり、業者の育成や保証システムなどを構築していく必要があります。特にメンテナンスのことを考えれば、できるだけ地元で業者を育成していくことが重要です。

#### ③集合住宅・事業所でのモデル的導入

太陽熱利用システムの普及は戸建住宅だけでは限りがあり、集合住宅や熱需要のある事業所・公共施設にも導入を広げていく必要がありますが、現状では比較的大規模なシステムはコスト高であり、導入がなかなか進んでいません。国が進める推進施策などを活用し、集合住宅や低温の熱需要のある事業所・公共施設などで、バックアップシステム（コジェネレーションやバイオマス、地中熱）と組み合わせた先進的システムのモデル導入を行うことも検討する必要があります。また、ESCO事業に組み入れることも考えられます。